opusdei.org

年間第12週・月曜 日100他人の目の わら屑

一高慢な人は他者の落ち度を 大袈裟に、自分を小さく考 え、言い訳をする。他者に関 する否定的な見解を避ける。 一他者をその欠点ぐるみで受 け入れる。「兄弟説諭」で助 ける。一建設的な批判。

2024/04/28

年間第12週・月曜日

100他人の目のわら屑

- 一 高慢な人は他者の落ち度を大袈裟に、自分を小さく考え、言い訳をする。他者に関する否定的な見解を避ける。
- 一他者をその欠点ぐるみで受け入れる。「兄弟説諭」で助ける。
- 一建設的な批判。

100.1高慢は隣人の欠点を過大視し、自分の欠点を過少評価して弁解しようとさせる。他の人々について否定的な判断を避けること

ある時、主は、話を聞いている人々に言われた。「あなたは兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのけから、兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』とどがして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。偽善者よ、まず自

分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる」¹。他の人々に対する、否定的な、また時には、不当な判断を避けることは謙遜のしるしです。

他の人々の非常に些細な欠点が、あ なた自身の個人的な高慢によって誇 張されます。ところが、多分、自分 の非常に大きな欠点は、最小に見積 もられ、うまく釈明されるでしょ う。そのうえ、高慢は、他の人々の 中に、自分の不完全さと過ちを見る 傾向があります。ですから、聖アウ グスチヌスは、一つの賢明な忠告を 私たちに与えてくれています。「あ なたの兄弟に欠けていると思う徳を 得るよう努力しなさい。そうすれ ば、あなたはもはや彼らの欠点を見 ないでしょう。なぜなら、あなた自 身にそれがなくなるからです | ²。

他方、謙遜は、社会生活によい人間 的キリスト教的雰囲気を醸し出すー 連の徳に、肯定的な影響を与えま す。謙遜な人間は、赦し、理解し、 助けます。謙遜な人間だけが、自分 は神からすべてのものを受けている ことに気づいているからです。自分 の惨めさを知り、どれほど神の憐れ みを自分は必要としているかに気が ついています。ですから、人を裁か なければならない時でさえ、隣人に 対して理解を示します。必要な時は いつでも言い訳を見つけてゆるしま す。そのうえ、私たちは、他の人々 の行いを動機づけるものが何である かについては非常に限られた見方し かできません。神だけが心の内の最 も深いところまで見通し、心を読み 取り、行いに伴うあらゆる状況の価 値をご存じです。

私たちは、毎日共にいる人々の明らかに否定できない欠点でさえ、大目に見ることを学ばなければなりませ

ん。ですから、間違いや悪い振舞いをしたからといってその人たき、の人を置き、侮辱することはたたきものはたたき、「自分を十字架にはいかなにはいかを完全にゆるすわけにはいまってが、を完全にゆるの無もが、の罪をからとしています。といいは、当るでいまででで、といいでで、無くには、ないに、のもいば、あるいは、ものでは、あるいは、ものでは、あるがましょう」。」。

隣人の長所を見つける努力をするなると、性格の欠点や、振舞いにがったというには、その人のでは、ともないでででででででででででです。 では、ともないではないが対にはないでででででででででででででででででででででででででででででででででいまれた。 、本のというにはいいでででででででででででできます。 、本のというにはいいででででででででででででででででででででででででででいます。 、本のというにはいいでででででででででででででできます。 、本のというにはいいでででででででででででででででででできます。 「他の人々の中に見る徳と 良い行いを、常に見る努力をもまで、自分の大きな事で、自分のの大き点をな事で、人々のので、大き点でで、大き点でで、ないでで、ないではそこので、このではという。この徳を獲得している。この徳を獲得している。この徳を獲得になります」 4。

人々の欠点、度口(ない) を口(ない) を情など、外のの人にはど、外のの人になど、他の人にない、他のなけれたちは、他のなけれにない。まず強ったがはいいますが強ったがはいる。ません。ないません。ないません。ないません。ないません。ないません。 100.2 欠点と共に人々をありのまま受け入れること。兄弟的説諭によって助けること

主は、使徒たちに欠点があるからと いって、値打ちを認めなくなった り、追い出したりされませんでし た。それは福音の中に明らかにはっ きりと反映されています。神に対す る奉献の初めに、彼らは時々、妬み や怒りに動かされ、仲間の間で第一 の者になりたいという野心さえ持っ ていました。このような時でも、主 は、細やかな心で正し、忍耐し、愛 し続けます。家庭生活、働いている 環境、個人的な人間関係、また、全 教会において根本的に重要な教えを 伝える者たちに、愛徳を行いに現し なさいとお教えになるのです。欠点 があるにもかかわらず、その人々を 愛することは、キリストの掟を果た すことになります。「律法全体は

『隣人を自分のように愛しなさい』 という一句によって全うされるから

です」⁵。イエスのこの掟は、欠点 のない人々、または、一定の徳のあ る者だけを愛さなければならないと は言っていません。愛徳には、順番 がありますから、第一に、主は、血 縁のつながりや家族関係があること で、神が私たちの傍に置かれた人々 を尊重するように、私たちに頼まれ ています。その次に、傍で働く 人々、友だちや近所の人々となりま す。この愛徳には、私たちを結びつ ける絆に従ってそれぞれ独自の特徴 があります。とは言え、私たちは常 に開放的で、喜んで受け入れる態度 を持ち、すべての人々を助ける望み を持たなければなりません。理想的 な人々にこの徳を行うという問題で はなく、実際に私たちと共に生活し 働いている人々、交通状態が非常に 悪く、公共の輸送機関が超満員であ る時、通りやラッシュ時に出会う 人々に行う徳です。おそらく、家庭 や会社で、怒りっぽく不機嫌なひね くれた人々、気分がすぐれず疲れた

人々、利己的で嫉妬深い人々に出会うでしょう。このように具体的な人たちと仲良く生き、評価し、援助するのです。

隣人の欠点に対するキリスト者の反応は、理解すること、祈ること、祈ることにして、それが適切と思われる時には、兄弟的説諭で助けることせん。理解を示さなければなりません。兄弟に祈り、相応しいばなりはいる。主は大いに勧めておられますが、そして、教会はいつも兄弟的説流を実行しています。

この兄弟的説諭は、愛徳の実りです。それは、謙遜に、傷つけることなく行われなければなりません。説諭は、一人でいる時に、友好的に、肯定的なやり方で行いますし、友人や仲間が、自分の霊魂、あるいは仕事に害を与えたり、他の人々とうまくやっていくのを困難にしたりする

自分の問題点に気づくのに役立ちま す。その問題点は、その人が、当然 期待することのできるはずの人間的 な尊敬や威信を失わせる可能性があ ります。この福音の教えは、これが 全く人間的基準に基づく社会の慣習 や友情という完全に人間的なレベル をはるかに超えたレベルのもので す。説諭は、人間の誠実さのしるし であり、説諭をすることで、陰口を 言ったり批判を避けたりすることが できます。私たちはこのように振 舞っているでしょうか? 私たちは、 キリストご自身から来るこの勧告を 実際に実践していますか?

100.3 肯定的な批判

私たちが、兄弟の目の中のごみは気にしないという生き方を守るならば、誰かのことを悪く言うのを容易に避ける事ができます。ある具体的な行いや誰かの行動について判断する義務のある時は、神のみ前で行っ

ていることを思い出してしましょ う。祈って意向を清めるのです。賢 明と正義という基本的な基準を尊重 します。エスクリバー師はよく次の ことを繰り返していました。「倦む ことなく批判する義務がある人は、 両者に耳を傾けなければならないと 私は主張します。『私たちの掟は、 まず、その人が言うことを聞き、行 うことを知らないでその人を判断す るのですか?』、高潔で誠実で正し い人、ニコデモは、イエスを咎めよ うと企む祭司たちとファリサイ派の 人々に問いかけました | ⁷。

批判しなければならないなら、批評は常に建設的で適切なものでなければなりません。常に、私たちは、の行動をした人と、その人の意もした人とが知ることができないにしても、その意向を尊重しないにしても、そのません。キリスト者は人間のな方法で批評する、自分に反対する

人々とさえ、友好的な関係を持続す るよう努めます。なぜなら、キリス ト者は、敬意と理解を人々に示すか らです。キリスト者は、知らない事 は批判しません。どうしても批判す る必要があるときは、時と場所、ま た、起こりうるすべての状況を考慮 しなければならないことを弁え、注 意深く自分の考えを表します。さも なければ、簡単に非難や中傷に陥る ことでしょう。愛徳と誠実によっ て、私たちは単なる印象を最終的な 判断にしたり、噂に過ぎないこと や、未確認の単なるニュースであっ て人や組織の評判を貶(おとし)める ようなことを、本当のこととして人 に伝えたりはしません。

私たちが人々の欠点を、徳や長所という枠の中だけで見るようになれば、謙遜によって自分自身のうちに多くの過ちや欠点を見つけることでしょう。そして悲観的ならずに主に赦しを乞い、他人にも幾つか欠点の

あることを理解し、自らの改善に力 を尽くことでしょう。こうなるため には、私たちを知り、私たちの世話 をしてくださる人々がしてくださる 誠実で正しい批判を受けとめ、受け 入れることを学ばなければなりませ ん。霊的に最も優れていることの確 かなしるしは、忠告に耳を傾けて聞 き、それを受け入れ感謝することで す⁸。 忠告を受け入れないのは、高 慢に打ち負かされた人々の特徴なの です。彼らは、常に、手近に言い訳 を持っており、愛徳と友情から、彼 らが失敗を克服し、悪い行いを再び 繰り返すことを避けるよう助けたい と思う人々に対して悪態をつきま す。

神に感謝を表す多くの理由が私たちにはあります。悪い方向に進んでいることを、折よく警告をしてくれる 人々、私たちができることと、もっと良くすべきことを忠告してくれる 人々を、自分の味方に持つことを望 んでいます。これは、親切で、誠実な批判で、金の重み以上の価値があります。

至聖なるマリアは、常に相応しい言葉を持っておられました。聖母は、 決して噂話をなさらず、いつも沈黙 を保もたれていました。

¹ マタイ7:3-5

 $^{^2}$ 聖アウグスチヌス,Commentary on Psalm 30, 2, 7

³ 聖フランシスコ・サレジオ, Introduction to the Devout Life, III, 28

⁴ 聖テレジア, Life,13, 10

⁵ ガラテヤ5:14

⁶ マタイ18:15−17参照

 $rac{7}{2}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 2 9 September 1 9 5 7

⁸ S.Canals, Jesus as Friend

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XII-getsu/ (2025/11/23)